

2018年西洋中世学会会員年間業績リスト（2018年1月～12月）

* 広い意味での西洋中世（古代末期～近世、イスラーム、ユダヤ、中東アジアなども含む）に関する刊行された業績を、自己申告していただいたものです（氏名=五十音順）。

赤尾裕子（アカオ ヒロコ）

「典礼と音楽（2）グレゴリオ聖歌」『聖火』（フランシスコ会）217（復活祭号）、11-17頁

「典礼と音楽（3）ミサの中の聖歌（1）」『聖火』（フランシスコ会）218（聖母被昇天祭）、11-17頁

「典礼と音楽（4）ミサの中の聖歌（2）」『聖火』（フランシスコ会）219（クリスマス号）5-11頁

上尾信也（アガリオ シンヤ）

「中世末期における古代水力オルガン「ヒュドラウロス」の継承」、『上野学園教育研究紀要』2、4-13頁

「セビアのイシドルスの楽器論 —古代ローマから中世ヨーロッパへの分水嶺なのか？—」、『上野学園教育研究紀要』2、14-21頁

朝治啓三（アサジ ケイゾウ）

「シモン・ド・モンフォール研究の現在—アンジュー帝国の視点から—」『関西大学文学論集』67-4、23-50頁

[新刊紹介] G.E.M. Lippiatt, *Simon V of Montfort and Baronial Government, 1195-1218*, Oxford University Press, 2017. xvii, 238p. 『西洋中世研究』10、245頁

足立広明（アダチ ヒロアキ）

[論文] 「神の前に立つ私—女性使徒テクラの自己洗礼と自己決定」『ジェンダー史学』14、5-20頁

[書評] 中西恭子著『ユリアヌスの信仰世界—万華鏡のなかの哲人皇帝』『西洋史学』265、65-67頁

阿部俊大（アベ トシヒロ）

[翻訳] アントニ・アルバセーテ=イ=ガスコン「遺言状に見る 15世紀バルセロナの解放奴隷たち(中)」『文化學年報』67、1-15頁

[翻訳] カロリーナ・ドメネク=ベルダ「9世紀の西地中海：古銭学のデータから」『人文學』202、190-152頁

阿部ひろみ（アベ ヒロミ）

Abe-Kosaka, Hiromi, "Korrespondenz und Gesandtschaften des Nürnberger Stadtrats im 15. Jahrhundert. Eine Analyse aufgrund des Jahres 1460" in: Sabine Wüst (Hg.), "Schätze der Welt aus landeshistorischer Perspektive. Festschrift zum 65. Geburtstag von Wolfgang Wüst", St. Ottilien 2018, S. 483-493.

猪刈由紀（イカリ ユキ）

「ヴェーバーによるドイツ敬虔派の論述」キリスト教史学会編『マックス・ヴェーバー「倫理」論文を読み解く』（大西晴樹ほかとの共著、教文館）、83-113頁

[書評] 「伊勢田奈緒『ヨハネス・ブーゲンハーゲン：もう一人の宗教改革者』」『キリスト教史学』72、157-165頁

池上俊一（イケガミ シュンイチ）

『フィレンツェ——比類なき文化都市の歴史』（岩波新書）

「魔女のダンスとサバトの成立」『思想』1125、30-50 頁

「思想の言葉——甦る魔女」『思想』1125、2-5 頁

「想像界の生物相・狼男」『月刊みんぱく』（国立民族学博物館）484、14-15 頁

石黒太郎（イシグロ タロウ）

「seedness の語形成について」『明治大学教養論集』533、25-39 頁

Parentheses in *Beowulf*: Editors' Choices. 『明治大学教養論集』537、1-19 頁

[書評] Malcolm R. Godden, *The Old English History of the World: An Anglo-Saxon Rewriting of Orosius*. *Studies in Medieval English Language and Literature* 33 (日本中世英語英文学会) pp. 53-66.

石坂尚武（イシザカ ナオタケ）

『苦難と心性——イタリア・ルネサンス期の黒死病——イタリア・ルネサンス期の黒死病』（刀水書房）

『どうしてルターの宗教改革は起こったか』（ナカニシヤ出版）

石田隆太（イシダ リュウタ）

「超越概念と個：トマス・アクィナスの場合」『哲学』（三田哲学会）141、1-28 頁

「トマス・アクィナスはポルピュリオスをどう理解していたのか——個体化の原理をめぐる議論を事例として」『新プラトン主義研究』（新プラトン主義協会）17、37-48 頁

「個体化の原理に潜む二つの側面：トマス・アクィナスによる個体化理論の基礎」『哲学・思想論叢』（筑波大学哲学・思想学会）36、91-103 頁

[翻訳]「トマス・アクィナス『定期討論集 霊的被造物について』第十項 試訳」『古典古代学』（筑波大学大学院人文社会科学研究科古典古代学研究室）10、1-54 頁

[翻訳]「トマス・アクィナス『定期討論集 霊的被造物について』第十一项 試訳」『宗教学・比較思想学論集』（筑波大学宗教学・比較思想学研究会）19、57-77 頁

[翻訳]「トマス・アクィナス『ディオニュシオス「神名について」註解』序文～第1講（第22節まで）試訳」『新プラトン主義研究』（新プラトン主義協会）16、69-79 頁

[翻訳] ピエール・ボネールス「対象における心的構成の無媒介性について：ペトルス・ヨハニス・オリヴィの思想における中世志向性概念の残響」『筑波哲学』（筑波大学哲学研究会）26、47-64 頁

[共訳]「ドゥンス・スコトゥス『「命題集」講義録』第2巻第3区分第1部第1問題 試訳」『筑波哲学』（筑波大学哲学研究会）26、123-138 頁（本間裕之との共訳）

[共訳] マルク・ペーターズ「トマス・アクィナス『真理について』の或る読解のために」『哲学・思想論集』（筑波大学人文社会科学研究科哲学・思想専攻）43、55-75 頁（津崎良典との共訳）

伊藤亜紀（イトウ アキ）

Il "Made in Italy" in Giappone negli anni Cinquanta e Sessanta del Novecento, 『人文科学研究 キリスト教と文化』49、53-76 頁

「How does religious fashion evolve? 連綿と続いてきたカトリックとモードの不可分な関係」

『Harper's BAZAAR』39、248-251 頁

「己の美のために」『Richesse』25、198-199 頁

[翻訳] マリア・ジュゼッピーナ・ムツアレリ「遠く離れたふたつの国を結ぶ中世」『人文科学研究

キリスト教と文化』49、3-22 頁

ラウラ・ディミトリオ「20世紀のイタリア・モードにおける日本の影響」『人文科学研究 キリスト教と文化』49、23-52 頁

井上浩一（イノウエ コウイチ）

[翻訳] ジョナサン・ハリス『ビザンツ 生存戦略の一千年』（白水社）

今井澄子（イマイ スミコ）

「ヤン・ファン・エイク《ロランの聖母子》と都市描写の伝統」『北方近世美術叢書 III ネーデルラント美術の誘惑 - ヤン・ファン・エイクからブリュッゲルへ - 』（ありな書房）、47-84、256-262 頁

「ハンス・メムリンク《聖ヨハネの三連画》のメッセージ」『北方近世美術叢書 III ネーデルラント美術の誘惑 - ヤン・ファン・エイクからブリュッゲルへ - 』（ありな書房）、85-122、262-268 頁

「初期ネーデルラント絵画の伝統とフェルメール《窓辺で手紙を読む女》—本を読む聖女から手紙を読む女性へ—」小林頼子監修『VS. フェルメール - 美の対決 フェルメールと西洋美術の巨匠たち - 』（八坂書房）、129-136 頁

“The Gideon Tapestries and Philip the Good, Duke of Burgundy,” *Bulletin of Osaka Ohtani University*, 52, pp. 23-42.

「ブルゴーニュ公妃マーガレット・オブ・ヨークの祈禱者像」『大阪大谷大学 歴史文化研究』18、1-25 頁

「「モデル」の伝播 - ハンス・メムリンク作《ダンの三連画》とイングランドにおけるフランドル美術の受容をめぐって - 』『美学』69(1) (第 252 号)、61-72 頁

[新刊紹介]「Cynthia J. BROWN, Anne-Marie LEGARÉ(eds.), *Les femmes, la culture et les arts en Europe entre Moyen Âge et Renaissance / Women, Art and Culture in Medieval and Early Renaissance Europe*[Texte, Codex & Contexte (TCC 19)], Turnhout, Brepols Publishers, 2016, VIII+560 p., 92 b/w ill. + 63 colour ill., €99.00. 」『西洋中世研究』10、229 頁

伊能哲大（イノク アキヒロ）

「現代に挑戦するフランシスコ⑨ 太陽の歌」『福音宣教』（オリエンズ宗教研究所）1月号 52-58 頁

「現代に挑戦するフランシスコ⑩ フランシスコと家族・家庭」『福音宣教』2月号 52-58 頁

「現代に挑戦するフランシスコ⑪ 助祭フランシスコ」『福音宣教』3月号 52-58 頁

「現代に挑戦するフランシスコ⑫ 聖務日課を大事にしたフランシスコ」『福音宣教』4月号 52-58 頁

「現代に挑戦するフランシスコ⑬ 働くこと」『福音宣教』5月号 52-58 頁

「現代に挑戦するフランシスコ⑭ フランシスカンとしての関わり」『福音宣教』6月号 52-58 頁

「現代に挑戦するフランシスコ⑮ 「悔い改めを宣べ伝える」使命」『福音宣教』7月号 52-58 頁

「現代に挑戦するフランシスコ⑯ 灰をかぶる悔い改める者」『福音宣教』8・9月号 61-67 頁

「現代に挑戦するフランシスコ⑰ 主を賛美し、慰め、教える」『福音宣教』10月号 52-58 頁

「現代に挑戦するフランシスコ⑱ フランシスコの死」『福音宣教』11月号 52-58 頁

「現代に挑戦するフランシスコ最終回 フラテルニタスの与える希望」『福音宣教』12月号 50-56 頁

印出忠夫（インデ タダオ）

「14 世紀プロヴァンス地方における「記念褥會計」の成立とその意義—サン・ポール・ド・モーゾール参事会教会の場合—」『西洋中世研究』10、148-167 頁

上田耕造 (ウエダ コウゾウ)

「ブルボン公シャルル3世の叛乱：16世紀初頭フランスにおける貴族層再編」『関西大学西洋史論叢』20、13-33頁

内川勇太 (ウチカワ ユウタ)

「前近代西ユーラシア貨幣史研究会第1回シンポジウム：中世貨幣の世界：錢貨、錢貨製造地、錢貨製造人（国際シンポジウム）」『立教経済学研究』71(4)、143-191頁（菊池雄太との共著）

江川温 (エガワ アツシ)

[彙報]「メネストレル主催若手研究セミナー・国際シンポジウム報告 文化交流から生まれ出るもの：《中世における文化交流》から西洋中世学の未来へ」『西洋中世研究』10、256-261頁（田邊めぐみとの共著）

大貫俊夫 (オオヌキ トシオ)

[翻訳] アルフレート ハーファーカンプ『中世共同体論—ヨーロッパ社会の都市・共同体・ユダヤ人』（柏書房）

大沼由布 (オオヌマ ユフ)

「27. ヴァンサン・ド・ボーヴェ『自然の鑑』」、「28. ヴァンサン・ド・ボーヴェ『諸学の鑑』」、「29. ヴァンサン・ド・ボーヴェ『歴史の鑑』」、「30. バルトロマエウス・アングリクス『事物の属性について』」安形麻理監修『インキュナブラの時代—慶應義塾の西洋初期印刷本コレクションとその広がり（第30回慶應義塾図書館貴重書展示会）』（慶應義塾図書館）、41-46頁

岡北一孝 (オカキタ イッコウ)

「ピウス二世『覚え書』の建築エクフラシスと理想都市ピエンツァ」、『Arts & Media』（大阪大学大学院文学研究科文化動態論専攻アート・メディア論研究室）、8、42-67頁

「『十二世紀ルネサンス』の波及：12世紀ローマの建築と「ルネサンス」」、『西洋中世研究』、10、196-201頁

尾形希和子 (オガタ キワコ)

「西洋中世の乳房—豊穡と罪、フェティシズムと拷問の間で」武田雅哉編『ゆるるおっぱい、ふくらむおっぱい 乳房の図像と記憶』（岩波書店）、165-182頁

「鎮火するおっぱい—ナポリのセイレーン」武田雅哉編『ゆるるおっぱい、ふくらむおっぱい 乳房の図像と記憶』（岩波書店）212-215頁

「驚異から警告まで—西洋の怪物表象」徳田和夫編『東の妖怪・西のモンスター 想像力の文化比較』（勉誠出版）、73-104頁

‘The Iconography of the Elephant in the Middle Ages: Some Observations on its Anatomy in Visual Art’『芸術論の現在 沖縄からの発信 沖縄県立芸術大学開学30周年記念論集』pp.5-49.

[書評]黒川正剛著『魔女・怪物・天変地異』筑摩選書、共同通信配信

小倉美加 (オグラ ミカ)

「ジェフリー・チョーサーの夢物語詩における「ソング」の文学的受容とその意味について」（明治大学情報コミュニケーション学研究所）『情報コミュニケーション学研究』18、111-130頁

小澤実 (オザワ ミノル)

- 『歴史学者と読む高校世界史：教科書記述の舞台裏』（長谷川修一と共編著、勁草書房）
「序」（長谷川修一と共著）『歴史学者と読む高校世界史』 ii-viii 頁
「古代と近代の影としての中世ヨーロッパ」『歴史学者と読む高校世界史』 25-44 頁
「ルーン文字」大城道則『図説 古代文字入門』（河出書房新社）、79-85 頁
[書評]「『〈驚異〉の文化史 中東とヨーロッパを中心に』（名古屋大学出版会、2015）」『西洋史学』266、71-73 頁
[書評]「海老澤衷・近藤成一・甚野尚志編『朝河貫一と日欧中世史研究』（吉川弘文館、2017）」『史苑』78-1、278-284 頁
「読書アンケート」『歴史書通信』 240、25-26 頁
「ハイジの国の中世」『工芸青花』 10、53-55 頁
「2017 年度公開シンポジウム「大久保利謙と日本近代史研究 家族・学問・教育」」『立教大学日本学研究所年報』 17、3-7 頁
「漫画でつなぐ、中世北欧と現代日本」幸村誠（構成：小澤実 写真：中丸禎子）『史苑』 78(2)、43-62 頁
「ヴァイキング船と船舶共同体」『西洋史学論集』 55、4-7 頁
「2017 年読書アンケート」『みすず』 667、7-9 頁

加来奈奈 (カク ナナ)

- 「カール 5 世によるネーデルラントの継承計画—1539 年ヘントの反乱とフランス王家との結婚政策を中心に—」『寧楽史苑』 63、51-65 頁

加藤磨珠枝 (カトウ マスエ)

- 「第 2 講義中世〜ルネサンス 揺れる肉体の聖と俗」『芸術新潮 特集ザ・ヌード』 4 月号（新潮社）、41-48 頁
[共訳]クリストファー・デ・ハーメル『世界で最も美しい 12 の写本』（青土社）

加納修 (カノウ オサム)

- 「トゥールのグレゴリウスにおける奴隷たち：メロヴィング期の奴隷制に関するひとつの覚え書き」『名古屋大学人文学論集』 1、193-211 頁
Quelques réflexions sur les formes de la fides facta, in *Confiance, bonne foi, fidélité : La notion de fides dans la vie des sociétés médiévales(VI^e-XV^e s.)*, sous la direction de Wojciech Falkowski et Yves Sassier, Paris, 51-68

河原温 (カワハラ アツシ)

- 「中近世ヨーロッパ都市の慈善と救貧—ブルッへの〈聖霊ターフェル〉の活動を中心に—」『史学』（慶應義塾大学）、87(3)、121-140 頁
[新刊紹介] A.Brown & J.Dumolyn(eds.), *Medieval Urban Culture*, Turnhout, 2017, 213p., 『西洋中世研究』 10、228 頁

菊地智 (キクチ サトシ)

- 「エックハルトの神化思想と異端断罪」田島照久、阿部善彦編『テオーシス—東方・西方教会における人間神化思想の伝統』（教友社）、359-379 頁

「ハーデウイヒの神化思想」田島照久、阿部善彦編『テオーシス—東方・西方教会における人間神化思想の伝統』（教友社）、194-209 頁

「リュースブルクの神化思想」田島照久、阿部善彦編『テオーシス—東方・西方教会における人間神化思想の伝統』（教友社）、429-454 頁

菊地重仁（キクチ シゲト）

Prädikate und Epitheta als Anrede und Selbstbezeichnung: eine Untersuchung zu ihren Bedeutungen in der schriftlichen Kommunikation der Karolingerzeit, edited by Thomas Deswarte, Klaus Herbers & Hélène Sirantoine, *Écriture et genre épistolaires (IVe-XIe siècle)* (EPISTOLA 1: Collection de la Casa de Velázquez 165), Madrid: Casa de Velázquez, pp. 49-58.

「ピピン：その登極をめぐる角逐と排除」堀越孝一編『悪の歴史』西洋編・下（清水書院）、20-32 頁

岸田菜摘（キシダ ナツミ）

[書評]「Bayer, Spaltung der Christenheit. Das sogenannte Morgendländische Schisma von 1054. (Beihefte zum Archiv für Kulturgeschichte, 53.) Köln, 2002」、『エクフラシス』8、131-134 頁

北館佳史（キタダテ ヨシフミ）

「13 世紀半ばにおける奇跡の記録の形態 聖エドマンズの奇跡関連史料をめぐる」『人文研紀要』（中央大学人文科学研究所）89、333-358 頁

[翻訳]「盗賊騎士の回心と改革派修道院の成立：『レラスのポンスの回心に関する論考とシルヴァネス修道院の始まりの真の物語』試訳」『中央大学文学部紀要 史学』63、59-81 頁

草生久嗣（クサブ ヒサツグ）

『文化接触のコンテクストとコンフリクト 環境・生活圏・都市〈大阪市立大学文学研究科叢書第 10 巻〉』（大場茂明、大黒俊二との共編、清文堂）

Seminaries, Cults, and Militia in Byzantine Heresiologies: A Genealogy of the Labeling of "Paulicians." *Radical Traditionalism, The Influence of Walter Kaegi in Late Antique, Byzantine, and Medieval Studies*, edited by David Olster and Christian Raffenerperger, Lexington Books, pp.13-29.

「イスタンブールのテクフル・サライ」『地中海学月報』407、6-6 頁

「党派活動(ハイレシス)としてのビザンツ異端論—パウリキアノイを見る眼」『西洋中世研究』10、10-24 頁

工藤義信（クドウ ヨシノブ）

Modernizing the Lesson: A Note on Peter Idley's Instructions to his Son, II. A. 1392-98. *Journal of Kanazawa Gakuin University* 16, pp. 141-144.

栗原健（クリハラ ケン）

「バルタザール・シューマンによる『2つの森林説教』（1607年）—近世ドイツにおける環境神学の先駆—」『キリスト教文化研究所研究年報』（宮城学院女子大学）51、53-69 頁

[新刊紹介] Clifford Davidson, Ton Broos, and Martin Walsh (eds.), *Mary of Nijmegen: The ca.1518 Translation and the Middle Dutch Analogue, Mariken van Nieuwemeghen*. 『西洋中世研究』10、233 頁

Maeve Brigid Callan, *The Templars, the Witch, and the Wild Irish: Vengeance and Heresy in Medieval Ireland*. 『西洋中世研究』10、231-232 頁

Carlos Andrés González-Paz(ed.), *Women and Pilgrimage in Medieval Galicia*. 『西洋中世研究』10、236-237 頁

黒川正剛 (クロカワ マサタケ)

『魔女・怪物・天変地異—近代的精神はどこから生まれたか』(筑摩書房)

「キリスト教の地獄観」西山克編『地獄への招待』(臨川書店)、7-23 頁

桑原夏子 (クワバラ ナツコ)

「北イタリアのジョッテスキー「スクロヴェーニ礼拝堂内陣の画家」と「セストの聖母晩年伝の画家」の比較研究」『芸術学』(慶應義塾大学三田芸術学会) 21、23-37 頁

児嶋由枝 (コジマ ヨシエ)

Iconoclasm and Iconophilia in Cistercian Art: Cloister Sculpture of Fontfroide, Alcobaca and Chiaravalle della Colomba. *IKON: Journal of Iconographic Studies*, 11, pp. 57-64.

「踏絵とトレント公会議後のイタリア美術—贖罪の図像およびミケランジェロ晩年の作品群との関係を中心に」『美術史研究』56、31-43 頁

「トレント公会議と美術」上智大学キリスト教文化研究所編『宗教改革の芸術世界』(リトン)、71-107 頁

小林亜沙美 (コバヤシアサミ)

[書評] Jürgen Dendorfer und Ralf Lützelshwab (Hgg.), *Die Kardinäle des Mittelalters und der frühen Renaissance*. *Millenio Medievale* 95, Strumenti e studi n. s. 33. Florenz: Sismel. Edizioni del Galluzzo, 2013, VI, 396 S., 79 Abbildungen. *Mediaevistik* 31, S. 484-486.

坂本邦暢 (サカモト クニノブ)

「デカルトのウナギ、ガッサンディの幾何学—科学の形成と経験のメタモルフォーゼ」河本英夫、稲垣諭編『哲学のメタモルフォーゼ』(晃洋書房)、57-72 頁

「科学をつくる—ルネ・デカルトと機械としての自然」『いま、哲学が始まる。明大文学部からの挑戦』(明治大学出版会)、115-138 頁

「ピエール・ガッサンディの原子論—エピクロス主義、キリスト教、新科学」田上孝一、本郷朝香編『原子論の可能性—近現代哲学における古代的思惟の反響』(法政大学出版局)、59-81 頁

「デカルトに知られざる神—新哲学とアレオパゴス説教」『白山哲学』52、65-81 頁

[翻訳] ディペシュ・チャクラバルティ「気候と資本—結合する複数の歴史」『思想』1127、117-144 頁

櫻井康人 (サクライ ヤスト)

「十字軍国家における都市統治構造」『ヨーロッパ文化史研究』19、41-75 頁

「ヨーロッパ商業都市と十字軍国家」『東北学院大学論集 歴史と文化(旧歴史学・地理学)』57、95-149 頁

佐藤彰一 (サトウ ショウイチ)

『宣教のヨーロッパ 大航海時代のイエズス会と托鉢修道会』(中央公論新社)

「Words of silence or silence in words: Essay on the deconstruction of

Historiarum Libri Decem by Gregory of Tours」『Spicilegium』no. 2, 1-12.

[新刊紹介] Sylvain Gougeheim, *La Gloire des Grecs. Sur certains apports culturels de Byzance à l'Europe romane* (Xe-début du XIIIe siècle), 『西洋中世研究』10、238-239 頁

Jean-Marie Moeglin / Steephane Péquignot, *Diplomatie et « relations internationales » au Moyen Âge* (IXe-XVe siècle), 『西洋中世研究』10、249 頁

Hélène Vu Thanh, *Devenir Japonais. La mission jésuite au Japon (1549-1614)*, 『西洋中世研究』10、253 頁

佐藤猛 (サトウ タケシ)

「一五世紀中葉におけるルネ・ダンジューの慣習法改正命令」『秋大史学』64、1-27 頁

[書評]「朝治啓三・渡辺節夫・加藤玄編著『〈帝国〉で読み解く中世ヨーロッパ—英独仏関係史から考える』」『史学雑誌』127(4)、79-88 頁

佐藤公美 (サトウ ヒトミ)

[分担執筆] *1603-1644. Una dinastia di «shogun» per il Giappone, i Qing in Cina*, in *Introduzione alla storia moderna*, a cura di Marco Bellabarba e Vincenzo Lavenia, Bologna 2018.

[論文]「「内乱」の歴史の射程—悪党研究会シンポジウム「南北朝「内乱」へのコメント—」悪党研究会編『南北朝「内乱」』(岩田書院)

[論文]「分裂した共同体の抵抗 —15世紀ヴェリスのラロン事件における政治言語—」『西洋史学』265、1-21 頁

佐々木徹 (ササキ トオル)

「神学における無あるいは否定及び虚無的なもの」『茨城キリスト教大学紀要』(茨城キリスト教大学) 52、35-55 頁

佐々木博光 (ササキ ヒロミツ)

「カルヴァン派と救貧—執事制度に関する一考察—」『史林』101(2)、111-130 頁

[翻訳]ルイーゼ・ショルン=シュッテ著『カール・ランプレヒト—産学官連携のなかの文化史—』その1『人文学論集』(大阪府立大学人文学会編) 36、133-171 頁

佐野大起 (サノ ダイキ)

[共訳]「第一・第二ラテラノ公会議(1123、1139年)決議文翻訳」(藤崎衛監修)『クリオ』32、61-80 頁

柴田隆功 (シバタ タカノリ)

[共訳]「第一・第二ラテラノ公会議(1123、1139年)決議文翻訳」(藤崎衛監修)『クリオ』32、61-80 頁

[新刊紹介]「クラウディア・ブリンカー・フォン・デア・ハイデ著、一條麻美子訳『写本の文化誌—ヨーロッパ中世の文学とメディア』白水社二〇一七・八刊、四六、二九六頁、三三〇〇円」『史学雑誌』127(2)、106-107 頁

[新刊紹介]「コルヴァイのヴィドゥキント著、三佐川亮宏訳『ザクセン人の事績』知泉書館、二〇一七・四刊、四六、三三六頁、四〇〇〇円」『史学雑誌』127(7)、91-92 頁

[新刊紹介]「Simon MacLean, *Ottonian Queenship*, Oxford, Oxford University Press, 2017, xxiv +

247p., \$97.50.」『西洋中世研究』10、246頁

白幡俊輔（シラハタ シュンスケ）

A Comparative Study of Italian and Japanese Military Architecture in the Sixteenth Century, *Human Evolution*, (International Institute for Humankind Studies), Vol.33, n.3-4, pp.147-162.

「マリアーノ・ディ・ヤーコポ『第三の書』からみる「ルネサンス工学書」の特徴」『文化学年報』（文化学会）67、185-208頁

杉山美耶子（スギヤマ ミヤコ）

Images and texts as advertisements: promoting the Holy Sacrament devotion in St. Savior's, Bruges. 『芸術学』（三田芸術学会）21、89-100頁

[翻訳]タイス・ウェストステイン「グローバル・アート・ヒストリーとネーデルラント」幸福輝編『17世紀オランダ美術と＜アジア＞』（中央公論美術出版）、403-422頁

鈴木明日見（スズキ アスミ）

『子ども観のグローバル・ヒストリー』（村知稔三・佐藤哲也・伊藤敬佑との共編著、原書房）

鈴木広和（スズキ ヒロカズ）

“Natio” in Gesta Hungarorum of Simon of Kéza. in T. Mitoma & J. Szmodis eds., *Legal Values in Japan and Hungary*. Osaka: Design Egg, pp.105-120.

瀬戸直彦（セト ナオヒコ）

「アササン assassin という単語の初出について」『Études Française —早稲田フランス語フランス文学論集』（早稲田大学文学部フランス文学研究室）25、22-41頁

瀧本佳容子（タキモト カヨコ）

[新刊紹介] Alvar, Carlos (coord.), *Estudios de literatura medieval en la Península Ibérica*. 『西洋中世研究』10、227頁

[新刊紹介] Hook, David (ed.), *The Arthur of the Iberians: The Arthurian Legends in the Spanish and Portuguese Worlds*. 『西洋中世研究』10、241-242頁

田口正樹（タグチ マサキ）

Freiwillige Gerichtsbarkeit und Bestätigungen am Herrscherhof im deutschen Spätmittelalter (1273–1400), in: *Zeitschrift der Savigny-Stiftung für Rechtsgeschichte, Germanistische Abteilung* 135, pp. 69-189.

「シンポジウム報告 ヤマト政権＝前方後円墳時代の国制とジェンダー—考古学との協同による、人的身分制的統合秩序の比較研究の試み 西洋法制史からのコメント」『法制史研究』67、302-308頁

[書評] Baumbach, Hendrik, *Königliche Gerichtsbarkeit und Landfriedenssorge im deutschen Spätmittelalter. Eine Geschichte der Verfahren und Delegationsformen zur Konfliktbehandlung*, (Quellen und Forschungen zur Höchsten Gerichtsbarkeit im Alten Reich 68), Böhlau, Köln 2017, 473S., in: *Zeitschrift der Savigny-Stiftung für Rechtsgeschichte, Germanistische Abteilung* 135, pp. 434-436.

[書評]「若曾根健治「中世都市の裁判と「真実」の問題—シュトラースブルク都市法から」『法制史研

究』67、474-476頁

[新刊紹介]Knut GÖRICH, Martin WIHODA (eds.), Friedrich Barbarossa in den Nationalgeschichten Deutschlands und Ostmitteleuropas (19.-20. Jh.), Köln-Weimar-Wien, Böhlau Verlag, 2017, 343p.」『西洋中世研究』10、237-238頁

[新刊紹介] Ellen WIDDER, Kanzler und Kanzleien im Spätmittelalter. Eine Histoire croisée fürstlicher Administration im Südwesten des Reiches, [Veröffentlichungen der Kommission für geschichtliche Landeskunde in Baden-Württemberg, Reihe B: Forschungen, Bd. 204], Stuttgart, W. Kohlhammer Verlag, 2016, 602p.」『西洋中世研究』10、255頁

竹田千穂 (タケダ チホ)

「〈燃やす者〉〈燃える者〉〈逃れる者〉: 〈Bal des ardents 燃える者達の舞踏会〉の中でフロワサールが描くイメージについて」『早稲田大学大学院 文学研究科紀要』63、177-192頁

田島篤史 (タジマ アツシ)

[共訳]「イェルク・ヴィクラム『少年の鑑』(1554年)(5)」『独逸文学』(関西大学独逸文学会)62、33-44頁

多田哲 (タダ サトシ)

「インエクレスシアメント論—提唱とその余波(2005~2017年)—」『国際教養学部論叢』(中京大学)11(1)、39-49頁

「コメントに代えて—リエージュと国境—」小野賢一編『国境を超える歴史学』(愛知学院大学人文社会科学研究所)、37-43頁

[新刊紹介]「宮松浩憲訳『中世, ロワール川のほとりで聖者たちと。』」『史学雑誌』127(6)、105-106頁

田中圭子 (タナカ ケイコ)

「コンラート・ツェルティスの *Germania illustrata* 構想と知識人ネットワーク」『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』55、213-222頁

田中俊之 (タナカ トシユキ)

「スイス中世史研究の現状と背景」『Fenestra—京大西洋史学報』(京都大学大学院文学研究科西洋史研究室)創刊号、4-8頁

田辺加恵 (タナベ カエ)

「『世界年代記』における《マタモロス》聖ヤコブと《ヒスパニア》」『東海大学国際教育センター紀要』38、1-12頁

田辺清 (タナベ キヨシ)

『もっと知りたい レオナルド・ダ・ヴィンチ 生涯と作品』(監修・裾分一弘:改訂版)の特別協力(エッセイ執筆ならびに全体を校閲)東京美術(3月10日刊行)全80頁

田邊めぐみ (タナベ メグミ)

「ブルターニュ公家の吊いのかたち——『ピエール2世の時祷書』を中心に——」『ステラ』(九州大学フランス語フランス文学研究会)37、75-90頁

[報告書]「文化交流から生まれ出づるもの：« 中世における文化交流 » から西洋中世学の未来へ」『西洋中世研究』10、256-258 頁

「メネストレル主催 若手研究セミナー・国際シンポジウム」『ANNUAL REPORT OF THE MURATA SCIENCE FOUNDATION』（公益財団法人 村田学術振興財団）32、441-442 頁

「メネストレル主催 若手研究セミナー・国際シンポジウム」『鹿島美術研究』（鹿島美術財団）年報第 35 号別冊、440-443 頁

[新刊紹介] Nicolas HATOT, Marie JACOB (dir.), Trésors enlumines de Normandie : Une (re) découverte. 『西洋中世研究』10、239-240 頁

津田拓郎（ツダ タクロウ）

「2017 年の歴史学界—回顧と展望—：中世(中東欧・北欧)」『史学雑誌』127(5)、328-332 頁

鼓みどり（ツツミ ミドリ）

[展覧会紹介]「メロヴィング時代(Les Temps merovingiens)展、パリ、クリュニー美術館、2016 年 10 月 26 日~2017 年 2 月 13 日」、『日仏美術学会会報 = Bulletin de la Societe franco-japonaise d'art et d'archeologie』37、21-26 頁

[翻訳] ハーバート・L・ケスラー「シュジェールによるサン・ドニ修道院の『被われた硝子(VITRUM VESTITUM)』の機能と『サファイアの原料(MATERIA SAPHIRORUM)』の使用」『富山大学人間発達科学部紀要』13(1)、129-145 頁

寺田龍男（テラダ タツオ）

「ハインリヒ・フォン・ミュンヘンの『世界年代記』—研究の現状と課題—」『メディア・コミュニケーション研究』（北海道大学）71、111-142 頁

「Das Nibelungenlied in Japan bis 1945 – eine Pseudorezeption?」『独語独文学研究年報』（北海道大学）44、159-172 頁

「ハインリヒ・フォン・ミュンヘンの『世界年代記』（2）—中世後期ドイツの写字生が典拠と取り組む姿勢—」『北海道大学大学院教育学研究院紀要』133、41-57

藤内哲也（トウナイ テツヤ）

「ヴェネツィアの「ゲットー」再考——A・ベッケル＝ホー『ヴェネツィア、最初のゲットー』に寄せて——」『鹿大史学』64・65、1-15 頁

「薩摩・大隅の港とヨーロッパ文化の伝来」鹿児島大学法文学部編『大学的鹿児島ガイド』（昭和堂）123-135 頁

「(コラム) 東洋のナポリ——鹿児島市の姉妹・友好都市」鹿児島大学法文学部編『大学的鹿児島ガイド』（昭和堂）78-80 頁

[書評]「高田京比子著『中世ヴェネツィアの家族と権力』」『史林』101(4)

中川久嗣（ナカガワ ヒサシ）

「南フランス・ロゼール県中部の中世ロマネスク聖堂 (4)」『東海大学紀要 文学部』108、31-53 頁

「南フランス・ドローム県北部の中世ロマネスク聖堂 (1)」『文明研究』（東海大学文明学会）36、193-218 頁

仲田公輔（ナカダ コウスケ）

「アルメニアからラヴェンナへ—ヘラクレイオス帝によるイタリア総督イサアキオスの任命とその背景」『西洋中世研究』10、168-184 頁

奈良澤由美（ナラサワ ユミ）

「リエズ（フランス、アルプ＝ド＝オート＝プロヴァンス県）の文化財発見の歴史とその活用の現在」『城西大学現代政策研究』11(1)、71-85 頁

「マルセイユのサン＝ヴィクトール修道院教会堂クリプト」『世界史の研究』256、26-33 頁

野々瀬浩司（ノノセ コウジ）

「ルターの戦争観と現代」（日本キリスト教文化協会編『〈宗教改革 500 年記念講演集〉宗教改革の現代的意義』（教文館）、119-160 頁

「研究ノート：ドイツにおける宗教改革と農村社会—ペーター・ブリックレの「共同体宗教改革論」をめぐって—」『キリスト教史学』72、104-123 頁

[書評]「踊共二編著『記憶と忘却のドイツ宗教改革—語りなおす歴史 1517-2017—〈MINERVA 西洋史ライブラリー 113〉』（ミネルヴァ書房、2017 年）」『史学雑誌』83-90 頁

「ヨーロッパ宗教改革研究の今日的意義—500 周年に寄せて—」『史学』88(1)、71-80 頁

橋爪烈（ハシヅメ レツ）

[共訳]井筒俊彦『イスラーム神学における信の構造—イマーンとイスラームの意味論的分析』監訳者：鎌田繁，共訳者：仁子寿晴（慶應義塾大学出版会）

[書評]「森本公誠（翻訳）タヌーヒー『イスラム帝国夜話』上下巻」『イスラム世界』90、61-69 頁

花房秀一（ハナフサ シュウイチ）

「1351 年のノルマンディ地方三部会における王権と地域住民」『中央学院大学法学論叢』31(2)、95-113 頁

「中世フランスにおける全国三部会と地方三部会—1350 年代のノルマンディ地方三部会を中心に—」『史潮』新 84、21-36 頁

原田晶子（ハラダ アキコ）

『世界史概論』（淑徳大学）（白鷗社）

「西洋中世との市壁と都市のアイデンティティ」『歴史学研究』972、326-364 頁

樋口諒（ヒグチ リョウ）

Byzantine Architecture: Within or beyond the boundaries of the Nation State. *Proceedings of the 12th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia*, pp.1553-1558.

「天井面架構の構築順序からみた中期ビザンツ文化圏の内接十字型教会堂建築の展開」『日本建築学会計画系論文集』（那須聖との共著）83 (745)、551-560 頁

「内接十字型教会堂における内部建築構成の展開：中期ビザンツ文化圏における内接十字型教会堂の系譜 その 1」『日本建築学会計画系論文集』（那須聖との共著）83 (752)、2025-2034 頁

「中期以降のビザンツ教会堂建築の研究動向」『西洋中世研究』10、202-212 頁

[新刊紹介] Vasileios Marinis, *Architecture and Ritual in the Churches of Constantinople: Ninth to Fifteenth Centuries*, Cambridge: Cambridge University Press, 2014 『西洋中世研究』10、247 頁

平野智洋（ヒラノ トモヒロ）

[史料翻訳・註解]「ゲオルギオス・スフランツィス『回顧録(小年代記)』 翻訳解説 (III)」『東海史学』52、43-69 頁

藤崎衛（フジサキ マモル）

[書評]「阿部俊大『レコンキスタと国家形成』『西洋史学』266、80-83 頁

[監訳]「第一・第二ラテラノ公会議（1123、1139年）決議文翻訳」『クリオ』32、61-80 頁

星野倫（ホシノ ヒトシ）

「天国と政治——ダンテ『帝政論』と『神曲』〈天国篇〉——」國司航佑ほか編『天野恵先生退職記念論文集』（京都大学文学部イタリア語学イタリア文学研究室）、24-41 頁

「天国と政治——日本におけるダンテ受容の一側面——」『日伊文化研究』56、57-70 頁

細田あや子（ホソダ アヤコ）

『人類救済の鑑』のなかのイエスの譬え」越宏一編『中世美術の諸相』（ヨーロッパ中世美術論集 5）、（竹林舎）

「媒介者マリアー『人類救済の鑑』を中心にー」杉木恒彦・高井啓介編『霊と交流する人びとー媒介者の宗教史』下巻、（リトン）

三浦麻美（ミウラ アサミ）

「中世マンسفェルト伯領におけるヘルフタ修道院—カルテュレールに見る女子修道院と創設家門—」『中央大学人文科学研究所 人文研紀要』89、357-387 頁

三佐川亮宏（ミサガワ アキヒロ）

[単行本]『紀元千年の皇帝—オットー三世とその時代』（刀水歴史全書、95）、（刀水書房）

[翻訳]ハンス=ヘニング・コーテューム「オットー・ブルンナーとナチズム—「時代を巧みにくぐり抜けて来ました」」（上）、『思想』1136、110-131 頁

[新刊紹介]Joseph Lemberg, *Der Historiker ohne Eigenschaften. Problemgeschichte des Mediävisten Friedrich Baethgen*, [Campus Historische Studien, Bd.71], Campus Verlag, 2015, 『西洋中世研究』10、244-245 頁

向井伸哉（ムカイ シンヤ）

La crise politique de la seigneurie à la fin du Moyen Age : l'exemple de Sérignan (Hérault) au XIVe siècle. *Etudes Héraultaises* 50.

Les relations politiques entre ville et campagne dans la seconde moitié du XIVe siècle : les élites urbaines de Béziers et la communauté villageoise de Sérignan (Hérault). *Revue historique* 688.

「中世後期南フランスにおける都市と農村の政治的関係—ベジエの都市エリートとヴァンドレスの村落共同体（一三五〇—一四〇〇）—」『史学雑誌』127(10)

村田光司（ムラタ コウジ）

「トロス司教座聖堂発掘報告（2016）—出土貨幣及び封鉛について」『史苑』78(2)、85-97 頁

[新刊紹介]「Dimitri Korobeinikov, *Byzantium and the Turks in the Thirteenth Century*, Oxford, Oxford University Press, 2014」『西洋中世研究』10、243-244 頁

村上寛（ムラカミ ヒロシ）

『鏡・意志・魂—ポレートと呼ばれるマルグリットとその思想』（晃洋書房）

「マルグリット・ポレートの神化思想—源流と波紋、水と火の比喩を中心に」田島照久・阿部善彦編『テオオシス—東方・西方教会における人間神化思想の伝統』（教友社）、210-240 頁

「世俗の愛と聖なる愛—至純の愛と神秘思想」『カトリコス』（東京純心大学キリスト教文化研究センター）11、57-74 頁

望月滯（モチヅキ リョウ）

「16 世紀ケルンに於ける市政の変容と大学の改革—中世以来のケルン大学史に於ける改革の意義をめぐって—」『クリオ』32、15-28 頁

[共訳] 藤崎衛監修、纒田宗紀、上遠野翔、紺谷由紀、佐野大起、柴田隆功、田野崎アンドレア嵐、藤崎衛、増永菜生、望月滯、築田航訳「第一・第二ラテラノ公会議（1123、1139 年）決議文翻訳」『クリオ』32、61-80 頁

八木健治（ヤギ ケンジ）

「手書き写本と印刷本—その書写材と制作工程」藤原是明編『図書館情報資源概論』（ミネルヴァ書房）、6-35 頁

山内志朗（ヤマウチ シロウ）

『光の形而上学』（編著、慶應義塾大学出版会）

「アヴィセンナの存在論と西洋中世」『東洋学術研究』57(1)、246-276 頁

「ライブニッツ『个体原理論』のスコラ哲学的背景について」『哲学雑誌』804・805、62-78 頁

[書評] 小林公『ウィリアム・オッカム研究』『法と哲学』4、96-110 頁

山口隆介（ヤマグチ リュウスケ）

[翻訳] トマス・アクィナス『神学提要』（知泉書館）

山田雅彦（ヤマダ マサヒコ）

「特集シンポジウム報告—バイユーの綴織の世界」『西洋史学論集』55、1-27 頁（春田直紀、小澤実、山辺規子、森貴子、保立道久、鶴島博和との共著、九州西洋史学会）

[書評] 「川分圭子、玉木俊明編著『商業と異文化の接触—中世後期から近代におけるヨーロッパ国際商業の生成と展開—』」『史学雑誌』127(11)、74-83 頁

[新刊紹介] 「フィリップ・ドラランジェ著、高橋理監訳、奥村優子・小澤実・小野寺利行・柏倉知秀・高橋陽子・谷澤毅共訳『ハンザー12—17 世紀—』」『西洋史学論集』55、79-82 頁

山辺規子（ヤマベ ノリコ）

「南欧の大学 イタリア [中世—17,18 世紀]」『大学事典』（平凡社）、133-134 頁

「もう一つのノルマン・コンクエスト—南イタリアのノルマン征服」『西洋史学論集』55、8-12 頁

百合草真理子（ユリクサ マリコ）

The dome painting of San Giovanni Evangelista in Parma: The relationship between Correggio's form and content, depending on the viewer and the viewer's position, *Aesthetics* 22, The Japanese Society for Aesthetics, pp. 55-69.

横山安由美（ヨコヤマアユミ）

[共訳] 『詩人クリスティーヌ・ド・ピザン』 (思潮社)

吉川 文（ヨシカワ アヤ）

ガイド・ダレッツォ 『ミクロログス（音楽小論）全訳と解説』（中世ルネサンス音楽史研究会訳、解説分担執筆、春秋社）

[新刊紹介] Andrew Hicks, *Composing the World: Harmony in the Medieval Platonic Cosmos* [Critical Conjunctures in Music & Sound]. 『西洋中世研究』 10、240-241 頁